

2021年度 教育実践総合センター活動概要

1. 構成員

センター長（併任）

教授 栗原 慎二

センター担当教員

《学校教育相談実践部門》

教授 栗原 慎二（併任）

准教授 深谷 達史（併任）

《教育実践研究開発部門》

准教授（実務家教員） 大久保幸則（併任）

准教授（実務家教員） 木佐木太郎（併任）

事務補助員

竹ノ中亜由美

非常勤相談員

教育臨床相談 エリクソン ユキコ

センターの概要

二つの部門を設置し、学校や教育委員会等の教育・行政機関や地域と連携を図りながら次のような活動を行っている。

教育実践研究開発部門では、高い専門性と優れた指導力を持つ教員を養成するための教育事業や研究・カリキュラム開発を行うとともに、学校の実践研究に対するコンサルテーションも行っている。学校教育相談実践部門では、現在の学校教育が抱える問題を解決・予防するための研究や、相談・支援活動を行っている。平成18年度から学校心理教育相談室（にこにこルーム）を設置し、学習や生徒指導・研究相談にかかわる心理教育的支援、学校心理学に関する教育・研究を行うとともに、学校心理学に関する研修の機会を提供している。

2. 主催・共催による公開講演会・シンポジウム・研究会等の活動

子どもの心と学び支援セミナー

①「メンバーの実践発表に学ぼう！」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2021年5月22日（土）

形態：オンライン

講師：永田拓也（広島市立小学校）

中西真季（東広島市立中学校）

升田智子（医療法人浅田クリニック）

栗原慎二（広島大学）

参加者数：36名

②「1人1台のテクノロジーを使いこなせる学習者の育成を考える！」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2021年6月26日（土）

形態：オンライン

講師：バーンズ 亀山 静子（NY州公認スクールサイコロジスト）

川俣智路（北海道教育大学教職大学院）

参加人数：26名

③「生活保護受給者世帯の教育支援の現状」

対象：教職志望の大学生・大学院生

期日：2021年7月29日（木）

形態：オンライン

講師：久岡則子（東広島市役所健康福祉部地域共生推進課・家庭支援員）

参加人数：20名

④「今こそやろう，協同学習！」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2021年9月11日（日）

形態：オンライン

講師：栗原慎二（広島大学）

真田穰人（大阪市立小学校）

米田成（元大阪市立中学校）

参加人数：35名

⑤「自殺予防教育」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生他

期日：2022年1月22日（土）

形態：オンライン

講師：Brian Lee（元香港教育局主席調査官）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：29名

⑥「愛着の課題を抱えた子どもの理解と支援」

対象：現職教員，教職志望の大学生・大学院生

期日：2022年3月26日（土）

形態：対面・オンライン

場所：広島市総合福祉センター会議室

講師：米澤好史（和歌山大学）

栗原慎二（広島大学）

参加人数：47名

3. 研究活動状況

センタープロジェクト研究

- ①科学研究費助成事業基盤研究 (B)
「認知的スキルと社会情動的スキルの統合的介入
方策の開発と評価」
- ②科学研究費助成事業挑戦的研究 (萌芽)
「コンピテンシーを育てる教師の力量を測定・
育成する方法の開発と評価」
- ③科学研究費助成事業基盤研究 (C)
「全ての児童生徒にとって効果的な共同学習モ
デルの開発」
- ④岡山県総社市との協力に基づく共同研究
「マルチレベルアプローチによる生徒指導改革
の研究」
- ⑤宮城県石巻市との協力に基づく共同研究
「学習指導の改善のための実践研究」
- ⑥虐待防止の為の保護者教育プログラムの開発

4. 教育・社会貢献事業

(1) にこにこルーム (学校心理教育支援室)

《学習相談》

にこにこルームの学習相談に参加した学生は
58名。

①前期 (2021年5月12日から2021年7月28
日)

東広島市内の小中学校から4年生以上の児童
生徒20名を対象に、5月12日から7月28日
までの計10回、毎週水曜日17時から18時、
または18時15分から19時15分までの60分、
対面およびオンライン (zoom) で認知カウンセ
リングを行った。終了後、毎回ケース検討会を
行った。

②後期 (2021年10月27日から2022年1月26
日)

東広島市内の小学校から4年生以上の児童生
徒25名 (前期からの継続を含む) を対象に、
10月27日から1月26日までの計10回、毎週
水曜日17時から18時、または18時15分
から19時15分までの60分、対面およびオン
ライン (zoom) で、認知カウンセリングを行
った。終了後、毎回ケース検討会を行った。

③その他の活動

地域の小学6年生5名を対象に、8月16日
から20日までの5日間、英語や国語の学習法
を学ぶ夏期学習講座を実施した。

《学校臨床相談》

一年間を通じて臨床心理士と大学院生の学生
支援員による学校臨床相談活動を実施した。1
回の面接は50分で、原則10回~15回を上限
とした回数限定でカウンセリングやソシヤ
ル・スキル・トレーニング (以下SST) 等を対
面およびオンラインにて行った。学生支援員が
担当するケースの判別は臨床心理士が行い、イ
ンテーク面接の実施後、学生が児童生徒の面接
を担当した。

コロナウィルス感染者数の状況により、対面
での相談だけでなく、オンラインでのカウンセ
リングも実施した。

①にこにこ広島ルーム (毎週土曜日)

広島大学東千田キャンパス内の相談室および
オンラインにて、毎週土曜日 (10時~17時30
分) に完全予約制で相談活動を行った。来談件
数は14件で、延べ相談件数は62回。来談のケ
ースは小学校2年生~高校1年生。不登校及び
不登校傾向、発達障害、友人関係の悩み、子育
て不安などに関する相談等が中心であった。

②にこにこ東広島ルーム (毎週日曜日)

広島大学キャンパス内の相談室およびオンラ
インにて、毎週日曜日 (10時~17時30分) に
完全予約制で相談活動を行った。来談件数は13
件で、延べ相談件数は53回。来談のケースは
小学校1年生~高校1年生。不登校及び不登校
傾向、摂食障害、自傷行為、発達障害、対人不
信、子育て不安などに関する相談であった。

③定期ケース検討会 (木曜日18時~20時30分)

前期・後期共に定期ケース検討会を対面・オ
ンラインのハイブリッドで実施した。参加学生
は事前登録した27名で、臨床心理士及び学生
支援員の担当するケースの事例検討会を行
った。また、学級経営、児童・生徒のアセスメント、
カウンセリング基本技法、SST技法等の勉強会
を実施した。(延べ24回)

④ボランティア実習

広島市内の母子自立支援施設、東広島市生活
困窮世帯への学習支援事業等において学習支援
ボランティア実習 (最低5回以上) をオンラ
インを中心に実施。学生は実習後に毎回レポー
トを提出し、教員によるフィードバックを受
けた。派遣した学生は延べ224名。

⑤集団ソーシャル・スキル・トレーニング & 学習
カウンセリング実習

地域の児童・生徒を対象に 2021 年 11 月 4 日から 2022 年 1 月 27 日まで計 5 回、対面による集団 SST を行った。参加者は対人関係の苦手な子どもや発達障害の傾向のある児童・生徒で、発達の課題が顕著にみられるグループ（小学 4～6 年生 6 名）と対人スキル向上に焦点をあてたグループ（小学 4～5 年生 8 名）に分かれ、集団 SST を学生支援員が担当し教員の指導のもと実施した。

(2) 学校コンサルテーション活動

概要：学校での生徒指導・教育相談に関するコンサルテーション

時期：通年（約 20 回）

対象：教員および保護者等

人数：延べ約 150 名

(3) 研修会及びワークショップ

概要：学校での生徒指導・教育相談に関する研修会及びワークショップ

時期：通年（約 40 回）

対象：教員等

人数：約 1000 人

(4) フレンドシップ事業「ゆかいな土曜日」

教育実践総合センターの教員をはじめ学内委員 13 名（例年は下見地区の地域の方等も学外委員として参加）から成るフレンドシップ事業運営委員会を組織している。「地域教育実践Ⅰ・Ⅱ」「地域教育支援実習Ⅰ・Ⅱ」の授業として通年で開講した。令和 3 年 6 月から 12 月にかけて年間 6 回の活動日を 13 時から 17 時の時間帯で行う予定だったが、新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえ 4 回の実施となった。計 76 名の学生が参加し活動した。また、東広島市立小学校から募集した 59 名の児童が参加した。「ひらめき工作グループ」、「リメイクミッショングループ」の 2 グループに分かれ、それぞれ児童 5～6 名と学生 6 名で 1 班として 5 班を編成、計 10 班でグループ活動を行った。

5. 研究紀要の刊行

・学校教育実践学研究（第 28 巻）の刊行